

目標像1 良好な居住環境が得られる

施策1－1 安心して暮らせる居住環境の形成

【施策の目標】

計画的な市街地形成を進めるとともに、市民と行政との協働により安全に住める宅地や建物を増やし、本市に住んでみたい、長く住み続けたいと思えるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・ 駅北口周辺は南口と比べて、駅前広場や都市計画道路が未整備なことから、商業集積や土地の有効利用が停滞しており、駅前の魅力と安全性を向上させる必要があります。
- ・ 駅北口周辺は、宅地の無秩序な開発や建物の老朽化により、防災性の低下も懸念されており、良好な市街地の形成が求められています。
- ・ 和光市の玄関口として、和光市駅の拠点性を更に高め、賑わいの創出や活性化を図ることが必要となっています
- ・ 老朽化した西大和団地の居住環境の改善が求められています。
- ・ 長期未着手となっている土地区画整理事業については、40年以上事業化に至っていないことから、早期に市のまちづくり方針を策定し、事業の見直しを進めていくことが必要です。
- ・ 開発行為等の計画に関して、事業者と近隣住民との生活環境をめぐる紛争への対応が求められています。
- ・ 老朽化が進んだ分譲マンションが増えてきています。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	和光市駅北口土地区画整理事業の推進	・ 土地区画整理事業により、駅前広場、道路及び公園等の公共施設並びに宅地の整備を行い、地域の防災性・安全性の向上を図り、良好な居住環境を形成します。 ・ 土地区画整理事業と再開発事業の一体的施行により、和光市の顔にふさわしい魅力ある駅前空間の形成を進めていきます。
②	駅北口高度利用化推進	・ 道路網と鉄道網を結ぶ「ハブ機能を有するバスターミナル」の駅前広場への導入、再開発事業による駅直結型の高層ビルの実現を目指します。
③	西大和団地の再生	・ 西大和団地周辺地区における住宅市街地総合整備事業による西大和団地の再生に向けた事業を支援していきます。 ・ 広沢地区エリアマネジメントにより連携していきます。

④	長期未着手土地区画整理区域に関する検討	・長期未着手土地区画整理について、市のまちづくり方針案を取りまとめ、地域住民とともに地域の整備構想を作成するなど、事業の見直しを進めていきます。
⑤	紛争の予防と調整	・まちづくり条例の適正な運用と紛争当事者の申出に応じて相談やあっせんなどを行い、解決を図ります。
⑥	分譲マンションの支援	・意見交換の場や相談窓口等を設けることにより、管理組合や居住者が、分譲マンションを適正に管理できるように支援します。

目標像1 良好な居住環境が得られる

施策1－2 計画的な公園の整備と維持管理の充実

【施策の目標】

公園を利用する市民が、憩いや安らぎを感じられるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・市民1人当たりの公園敷地面積の目標水準である10㎡以上とする必要があります。
- ・公園施設の老朽化が進んでいるため、計画的に施設を更新する必要があります。
- ・市民との協働による安全で快適に利用できる公園の環境づくりを進めていくことが必要です。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	計画的な公園の整備	・土地区画整理事業において計画的に公園整備を進めていきます。 ・借地公園については、施設の利用状況等を踏まえて、公有地化を進めていきます。 ・公園が不足している地域について、生産緑地を買い取るなど用地の確保に努めます。
②	市民との協働による公園の見守りや維持管理	・公園サポーター制度の活用などを通じて、市民との協働による公園の見守りや維持管理を進めていきます。
③	公園施設の安全性の確保	・公園施設について、引き続き、定期的な点検及び修繕を行い、全ての施設が安全に利用できるよう、整備、維持管理に努めます。

目標像1 良好な居住環境が得られる

施策1－3 安全な水の安定供給

【施策の目標】

安心して飲める水を、市民にいつでも安定供給できるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・災害時においても可能な限り安定した供給ができる、災害に強い管網の整備を継続して推進する必要があります。
- ・貴重な資源である水の知識について、市民意識の向上が必要です。
- ・収納事務の効率化や支払の利便性の向上を目的としたキャッシュレス決済の導入について、研究していく必要があります。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	安全安心な水質の維持	・水質の維持に努めます。 ・取水井戸の維持管理を定期的に行い、自己水源の確保に努めます。
②	安定した供給の堅持	・浄水場や取水施設の計画的な改良・改修及び耐震管路への更新を行います。 ・県企業局との連携を図り、県水の受水体制を継続します。
③	経営の効率化・合理化	・積極的な収納率の向上に努めます。 ・引き続きアウトソーシングに取り組むことにより、一層の効率化、合理化に努めます。 ・安定した経営を維持するための料金体系を検討します。
④	市民の水道に対する意識の向上	・水道週間などのイベントにおいて、ライフラインとしての水道事業に対する理解を深め、水を大切にしよう PR します。

目標像1 良好な居住環境が得られる

施策1－4 公共下水道の維持管理

【施策の目標】

公共下水道の適切な維持・管理に努めます。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・土地区画整理事業地区内等の新規下水道整備を早期に実施していく必要があります。
- ・老朽化した下水道施設に対して、長寿命化を考慮した、戦略的な維持管理・改築を行い、機能を継続的に発揮していく手法を構築する必要があります。
- ・雨水排水施設の整備は莫大な費用を要することから進捗に時間がかかっているほか、既存の雨水排水施設の老朽化による機能低下に備え、長寿命化を考慮した効率的で計画的な整備および更新が必要です。
- ・雨水管整備に合わせて、道路排水を取り組むための道路集水枥の設置等について、道路管理者と連携を図り、水害への対策を円滑に進めていくことが必要です。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	着実な下水道の整備	・関係機関と連携し、未普及地区への下水道整備を進めます。
②	施設の維持管理及び長寿命化	・施設の機能を確実に発揮させるため、定期的な調査及びメンテナンスを実施し、施設を良好な状態に保ちます。 ・老朽管の長寿命化を進めます。
③	雨水の宅地内処理の指導・啓発	・宅地に降った雨水については、宅地内処理を行うよう指導・啓発します。
④	雨水排水施設の整備	・大量降雨による浸水を防止するため、雨水排水施設の更なる整備を進めます。

目標像2 安全かつ快適に移動できる

施策2－1 安全で快適な道路の整備

【施策の目標】

交通の要衝として広域的な交通需要に対応しつつ、市民の目線に合わせた道路整備と歩道の段差解消を行い、市民の利便性を高め、誰もが安心して歩けるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・道路整備実施計画に基づく拡幅整備では、地権者の合意形成などを進めていくことが必要です。
- ・交通量の増加により、市道の劣化の進行が速まっているため、計画的な補修・修繕が必要です。
- ・国道や県道を含め危険箇所が多く、歩行者等の安全性の確保が求められています。
- ・一般国道 254 号和光富士見バイパスが松ノ木島交差点まで完成することが見込まれる中で、生活道路への交通流入が増えていることから、松ノ木島交差点以南の早期整備が必要です。
- ・一般国道 254 号和光富士見バイパス延伸に伴う都市計画道路の変更によって、市内の都市計画道路や主要幹線の優先整備箇所の検討を行う調査など、見直しが必要となっています。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	計画的な道路整備の推進	・道路整備実施計画に基づきつつ、状況に応じて柔軟に整備を進めていきます。 ・計画的かつ効率的な道路補修など適切な道路や水路の維持管理を行っていきます。
②	環境に配慮した道路整備	・環境保全技術による市道舗装補修工事を実施していきます。
③	安心・安全な歩車道整備	・歩道の拡幅整備や段差の解消などで、交通弱者にやさしい歩車道の整備を図ります。 ・国道や県道についても、歩道未整備箇所があることから、歩行者等の安全が図れるよう関係機関に対し、要望を行います。
④	都市計画道路の整備	・一般国道 254 号バイパスの都内延伸に合わせた市内都市計画道路網の優先整備箇所の検討など、見直しを行ってまいります。 ・土地区画整理事業により計画的に整備を進めるとともに、優先整備路線については、街路単独の整備なども事業化できるように先行的に用地取得を進めます。

目標像2 安全かつ快適に移動できる

施策2-2 利便性の高い地域公共交通網の形成

【施策の目標】

地域公共交通の利便性を高め、市民が快適に市内外へ移動できるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・高齢者や障害者など、交通弱者といわれる方々の移動手段の確保が求められています。
- ・鉄道、バス、タクシーなどの民間交通事業者に対し、更なる安全性の確保や利便性の向上を働きかけていくことが求められています。
- ・市内循環バスを含めた総合的な交通対策を進める必要があります。
- ・鉄道、バス、タクシーだけでなく、次世代モビリティやMaaS（Mobility-as-a-Service）（※）の取組も検討しながら、市内における都市基盤整備事業の進捗にあわせて、アクセスや立地の優位性を生かした都市間競争に対する方向性を打ち出す必要があります。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	鉄道及びバス利用者の利便性の向上	・利用者の安全性の確保、利便性の向上を図るよう民間交通事業者に対して要望を行います。
②	地域公共交通会議を通じた総合的な交通体系の改善	・民間交通事業者とともに設置する地域公共交通会議を通じて、交通不便地域の環境改善を含めた総合的な交通体系の改善を図ります。
③	新しい移動技術の活用検討	・次世代モビリティやMaaSを含めた新しい移動技術の活用を検討します。 ・シェアサイクルなど、民間と連携した交通手段の充実を進めます。
④	外環上部丸山台地区の活用	・外環上部丸山台地区について、各種調査や周辺状況等を踏まえ、交通ターミナル機能その他有効利用方策の検討を行います。

※ 出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに提供する等、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとしてとらえる概念

目標像2 安全かつ快適に移動できる

施策2－3 交通安全対策の推進

【施策の目標】

安全な道路環境を整備し、道路利用者の交通安全に対する意識を高め、誰もが安全に道路を通行できるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・歩行者と自転車がすれ違う際に危険を感じる人が多い状況にあります。
- ・交通事故については、高齢者や自転車の事故が多くなっています。
- ・駅周辺における放置自転車の問題については、自転車利用者のモラルの向上が必要となっています。
- ・自転車駐車場については、様々なタイプの自転車に対応するため、既存の自転車駐輪場の改良などを検討していく必要があります。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	交通安全意識の啓発	・小学校での交通安全教育を行います。 ・自転車利用者や高齢者への啓発活動を進めます。
②	交通安全施設の整備	・警察、国・県道管理者及び市の三者による道路診断を実施し、事故原因を把握し、再発防止を図ります。 ・防護柵、反射鏡、街灯などの整備及び維持管理を行います。
③	放置自転車対策の推進	・自転車駐車場を安全で快適に利用できるようにしていくことや、放置自転車の定期的な撤去を行います。

目標像3 身の回りの不安が軽減される

施策3－1 防災体制・消防支援体制の強化

【施策の目標】

災害時に市民一人ひとりが自助・共助の意識を持つとともに、防災・消防体制を強化することにより、市民が安心して生活できるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・地域住民間のコミュニティ意識が希薄化しており、地域における自主的な防災体制の強化が求められています。
- ・防災施設における備蓄品の計画的な整備や災害時の要配慮者対策が求められています。
- ・消防団がその力を十分に発揮できるよう、団員数の確保に努めていく必要があります。
- ・和光消防署白子分署や新倉防災倉庫の老朽化が進行しています。
- ・和光市南北の消防力のアンバランス解消が求められています。
- ・雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、台風やゲリラ豪雨等、水害への備えが重要になっています。また、要配慮者利用施設の洪水時避難対策を進めていく必要があります。
- ・国や全国市長会、災害時協定機関などからの災害時支援を円滑に受け入れるため、受援体制の整備が求められています。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	自助・共助の意識づくり	・災害時に自分の命や財産は自ら守り、住んでいる地域は近隣住民みんなで守るという自助、共助の意識を高めるための啓発を行っていきます。 ・地域防災組織などの活動援助を行っていきます。
②	防災体制の充実	・地域ごとの特性や災害の種類を考慮した防災訓練を行うとともに、各地域における自主的な防災体制の充実を図ります。 ・他自治体や国などの機関、民間などとの災害時応援協定の充実を図ります。
③	防災施設や情報伝達手段の計画的な整備	・新倉防災倉庫など、防災施設の計画的な更新を行います。 ・計画的な備蓄食糧の管理を行います。 ・災害用資材の整備を進めます。 ・災害時の情報伝達手段の確保を進めます。
④	災害時要配慮者対策	・災害時要配慮者に対する対策を検討していきます。 ・災害時要配慮者利用施設の洪水時避難対策を検討

		していきます。
⑤	消防体制の強化	・埼玉県南西部消防本部との連携強化を図ります。 ・消防団員数の維持に努め、消防団体制を強化していきます。 ・消火栓、防火水槽などの適正配置を図ります。
⑥	和光消防署分署の移設の検討	・和光消防署白子分署について、市北側エリアへの移設の検討に向け、埼玉県南西部消防本部との協議を進めます。
⑦	国民保護の措置	・警報の伝達や避難体制を整備します。

目標像3 身の回りの不安が軽減される

施策3－2 地域と連携した防犯対策の推進

【施策の目標】

地域と連携した防犯対策により、誰もが安全で安心して暮らせるまちにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・市民の防犯意識は高いものの、地域のコミュニティ意識が希薄化しつつあることを踏まえ、防犯対策の推進が求められます。
- ・オレオレ詐欺やキャッシュカード手交型詐欺などの犯罪手口が年々複雑かつ巧妙となっており、特殊詐欺被害防止のための対策が必要です。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	地域の自主防犯体制づくり	・地域における防犯活動を推進します。
②	防犯意識の啓発	・市民への防犯意識の啓発を行います。 ・防犯に関する知識の普及や防犯リーダーの育成を進めます。
③	防犯体制の充実	・警察署や自治会などとの連携強化を図ります。 ・青色防犯パトロールカーや防犯灯設置など、地域での活動に対する支援などを充実させます。

目標像9 いきいきと仕事をし続けられる

施策9－1 交通の利便性を生かした産業拠点の創出

【施策の目標】

先端的な研究・開発施設や物流関連施設等を集積し、交通の利便性に優れた新たな産業拠点を創出します。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・一般国道254号和光富士見バイパス及び東京外かく環状道路の延伸計画の進展に伴い、和光北インター地区の東側においても産業拠点としての整備を望む声が高まっています。
- ・土地地区画整理事業による新たな産業拠点の整備にあたっては、近隣住民の生活環境に配慮する必要があります。
- ・市内研究機関が有する豊富な知的財産の更なる活用や新産業地区への企業誘致を進めていく必要があります。
- ・進出企業への安定的な雇用を確保するために、交通利便性の向上や働く人が利用する利便施設の誘致について配慮が必要です。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	和光北インター東部地区における産業拠点の整備	・一般国道254号和光富士見バイパスの延伸を受けて、沿線地域の一体的な整備を進めるため和光北インター東部地区土地地区画整理事業を推進し、新たな産業拠点を創出します。
②	地区計画の活用による良好な環境形成	・地区計画を活用し、産業拠点として適切な土地利用の規制及び誘導を行うとともに、周辺地域の生活環境に配慮した良好な環境の形成を図ります。
③	関係機関との連携による企業誘致	・新たな産業拠点における市内企業等の創業及び新事業展開を推進するため、関係機関や和光理研インキュベーションプラザと連携して企業誘致を進めます。
④	利便施設の整備(雇用の確保)	・雇用確保を推進するため、利便施設を誘致して就業地として賑わいを創出します。

目標像12 シビックプライドを持つ

施策12－1 良好な景観形成の推進

【施策の目標】

まちの特色や地域の個性を生かした良好な景観を形成し、次世代に引き継ぐことにより、まちへの愛着や誇りを育みます。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・快適な生活環境を維持するため、都市と自然の調和を大切にした景観を創出するまちづくりが求められています。
- ・地域の景観を損ねている既存の建物などへの対応が求められています。
- ・開発が進み午王山や白子宿などの歴史文化を伝える地域資源が減少してきています。
- ・地域の個性を生かした良好な景観を形成するためには、市民、事業者及び行政の協働による景観づくりが求められます。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	都市と自然との調和のとれた地域性豊かな景観の形成	・変化に富んだ地形の上にそれぞれの地域の個性的な街並みの形成を図りながら、都市と自然との調和を大切にする和光市らしい良好な景観づくりを推進します。
②	歴史・文化の伝承や地域の交流を通じた景観の形成	・地域でのコミュニティ活動や地域文化の保存活動、学習活動などを通じて、特徴的な自然や史跡、文化財などの歴史的な資源を継承する景観づくりを推進します。
③	市民、事業者及び行政の三者協働による良好な景観の形成	・公共施設の整備に当たっては、市内景観の指標となるよう、良好な景観の形成に努めます。 ・市民や事業者にわかりやすい景観のガイドラインなどを作成することにより、地域での景観づくりの輪を広げ、三者の協働による市民生活及び産業活動の活性化に資する景観づくりを推進します。

目標像12 シビックプライドを持つ

施策12－3 湧水・緑地の保全と再生

【施策の目標】

次世代に伝えるべき財産である湧水と緑地などの自然環境を守り、育て、生かし、市民が身近に豊かな自然を感じられるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・近年、市内における開発行為により、湧水及び緑地などの自然環境が徐々に失われており、保全と再生が必要です。
- ・湧水や緑地などの自然環境の保全意識が十分に浸透していないため、その自然環境を継承すべき次世代の人材が育っていない状況です。
- ・生産緑地地区の都市計画決定から30年が経過し、転用が可能となる緑地が増えるため、今後の緑地保全について対応が必要となっています。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	自然環境を守る仕組みづくり	・緑地、湧水などの自然環境を保全し、市民との協働による維持管理体制を整備するなど、自然環境を守る仕組みをつくり、自然環境の保全及び再生に努めます。
②	身近な緑を育てる仕組みづくり	・まちづくりにおける緑の確保や集合住宅及び事業所などにおける緑化を奨励するとともに、個人や家族が身近な緑を育てる仕組みづくりを行っていきます。
③	自然環境への理解促進と人材育成	・自然環境に関する広報や学校教育及び生涯学習における環境学習を通じて、自然環境の保全意識の向上と継承する次世代の人材を育てます。 ・自然環境の保全及び再生に関する市民活動の活性化させていきます。
④	緑地の保全	・特別緑地保全地区、市民緑地及び保全地区などの制度を活用し、緑地の保全を図ります。
⑤	計画的な生産緑地の追加指定	・地権者との調整を図りながら、計画的に生産緑地を追加指定を行うとともに、既存の生産緑地については、特定生産緑地への移行を推進するなど、都市農地の保全を図ります。

目標像12 シビックプライドを持つ

施策12-5 効果的なシティプロモーションの展開

【施策の目標】

市の情報について市民が分かりやすく知ることができ、また、様々な媒体を活用した効果的な魅力発信により、より多くの人が市に関心を持てるようにします。

【施策を取り巻く現状と課題】

- ・多くの市民と情報の共有を図るため、年代や生活形態に合わせた、多様な情報提供の方法が求められています。
- ・報道機関などの媒体を活用した更なる情報発信が求められています。
- ・シティプロモーションの視点から地域の魅力を市内外へ効果的に訴求し、市民が「愛着」や「誇り」を持てるように、また市外の人が本市に「訪れたい」「住みたい」と思えるような取組が必要です。
- ・若い世代や高齢者、外国人にとっても手に取りやすく読みやすい広報紙にするため、記事の内容の再構築や多言語化などの取組が求められています。
- ・デジタル化が進み、スマートフォンやアプリなどの電子媒体を用いた閲覧が求められています。また、現在取り組んでいる Twitter 以外にも様々な SNS での魅力的な情報発信が求められています。

【課題解決に向けた取組内容】

	取組内容	概要
①	各種媒体による情報提供	・年代や生活形態に合わせた様々な媒体を活用した広報を充実させます。
②	積極的な情報発信	・全ての職員が市の広報担当であるという意識を持ち、情報提供の内容の充実を図り、積極的に情報発信を行います。 ・観光資源等を活用して魅力的な情報発信を行っていきます。 ・キャラクターの活用やフィルムコミッションを推進し、市への愛着を高め、シビックプライドの形成を図ります。